

富士山SDGsパートナー応援団参加申請書

2024年12月9日

富士宮市長 殿

組 織 名 富士コミュニティエフエム放送(株)ラジオエフ

代 表 者 代表取締役社長 小沢教司

電 話 0545 - 55 - 1123

メ - ル chieko@radio-f.jp

担 当 者 佐野智恵子

概 要	1. 自社・自団体の活動概要や活動実績
	富士宮市・富士市を放送エリアにする地域密着のラジオ局「ラジオエフ」を運営しています。エネルギー消費量が少ないラジオ受信機を使い、誰もが無料で地域情報をキャッチできるため、停電が長引くであろう大規模災害時に役に立ちます。日頃から富士宮市・富士市とは「防災協定」を、地域企業とは「防災パートナー」を結び災害に備えています。その他、地域課題を解決すべく各種事業を行っています。 ①中学生・高校生のコミュニケーション支援・参加無料の部活動「ラジオエフ部」の運営 ②首都圏で学ぶ地元出身大学生とのコネクションづくり「同郷ラジオ」の運営 ③食品ロスの削減と地区活動者のモチベーションアップを同時に叶える「まちぐるMe」の運営 ④災害時のトイレ問題を解決・リーズナブルな災害用トイレシート「断水トイレシート」の販売
	2. 活動概要や活動実績が記載されたウェブサイトまたはPR資料等 (□のいずれかに✓を1つ)
	☒ ウェブサイトURL https://radio-f.jp/
	☒ 添付資料 (ウェブサイトがない場合は会社案内や団体紹介等を申請書に添付してください)
	3. パートナー団体への支援方法
	・パートナー団体が行うSDGs達成に資する事業を、ラジオ番組で紹介します ・中学生・高校生・大学生へ情報発信したい事業所に対して、当社のサービスを提案します。 ・食品ロスの削減を行いたい食品製造販売店に対して、当社のサービスを提案します。 ・自主防災組織・自治会組織の活動に対して、当社のサービスを提案します。
	4. 応援団として制度に期待すること
	行政課題の解決を行おうとする民間活動者の熱意が喪失することで、大事な数々の活動が終息する様子を見てきました。応援団の制度創出の背景には、そのような課題があるのではと拝察いたします。応援団として登録する企業は、民間活動者の熱意を持続するためにも行政寄りの視点も持ち合わせた支援をすることが求められる認識しています。応援団となる事業所が、モチベーションを保ち続けるためにも、応援団として活動するメリットが欲しいところです。

<記載内容の確認及び同意事項> ※該当するすべての□に✓を入れてください。

- ☒ 申請書に記載の概要等について事実と相違がないことを誓約します。
- ☒ 申請者及び申請者の企業・団体等は、富士山SDGs推進パートナー応援団設置要領第3項第2号に規定されている要件に該当しないことを誓約します。
- ☒ 登録情報及び取組内容について、富士宮市がウェブサイト等で公表することに同意します。